

徳島県GIGAスクール構想推進本部 × 徳島ICT活用モデル推進チーム

令和7年度の重点推進事項

- ①「徳島ICT活用モデル」M段階の事例創出
- ②「県域アカウント」の普及

～持続可能な漸進を～

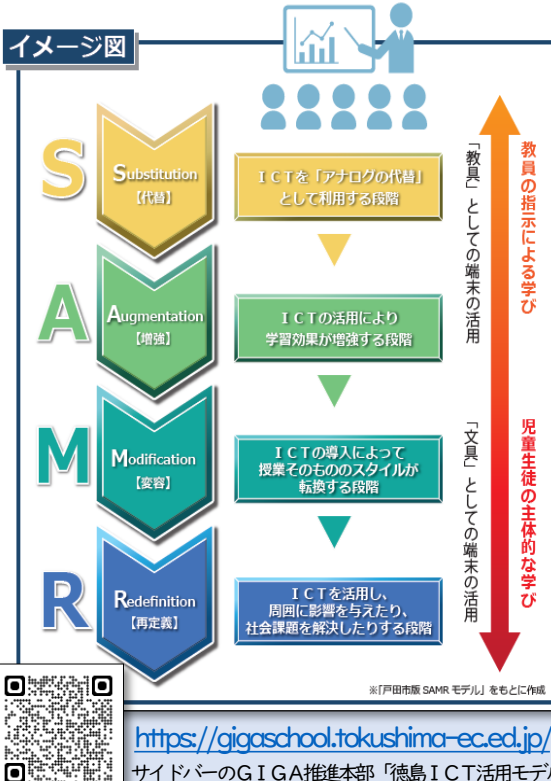
デジタル学習基盤を前提とした新たな時代にふさわしい学びの実現に向け、できることから取り組んでください。

※※再確認！！※※

ICT活用は授業の目的ではなく手段ですが、情報活用能力は学習の基盤となる資質・能力に位置付けられているので、全ての学年において、意図的・計画的に教科横断的な視点で育成する必要があります。

①「徳島ICT活用モデル」(S A M R)

徳島県の教育DXによる学び・指導の変革、1人1台端末の日常的・効果的な活用の推進のために策定。ICTが授業に影響を与える段階を、S・A・M・Rで示している。



M段階の事例創出のポイント

- ① ICTを活用した児童生徒の主体的な学びとなっている。(学習者である子供自身が学習を主体的に調整できる授業づくり)
- ② デジタル学習基盤により、従来のマンパワーではできなかった学びが実現している。
収集・創造・判断・発信・表現・伝達・処理等の場面×すぐに・いつでも・どこでも・個に応じて・大量に・誰とでも・何度でも等

M段階の実践に取り組む際の留意点

- ① 授業の目的は、各教科等の目標達成である。(ICTは学習効果を高める手段)
- ② 一斉授業や知識伝達型を否定するものではない。(多様な学習形態を組み合わせる)
- ③ 1時間の授業の中で、少しずつM段階の取組を。(単線型と複線型を混在させて)
- ④ 「児童生徒の主体的な学び＝教師の放任」ではない。(より個に応じた指導となるため、これまで以上の丁寧な見取りや支援等、教師の授業力が求められている。)

②「県域アカウント」



徳島県内の公立学校に、共通ドメインによる県域を統一したGoogleアカウントを教職員及び児童生徒に発行。校種や市町村の別による影響が小さく、効果的な学習指導や業務効率化、学習履歴や教育データの効果的活用にも有効である。

標準化と自由化

標準化⇒県域アカウントで利用可能なツールを活用した授業づくり・校務DXなど

※県内全ての児童生徒・教職員が共通して、一定のスキルやノウハウを身に付けていく。

県域アカウントのメリット (一例)

- ① 教師のメリット
校種や市町村の枠を越え、各ツールの実践事例やノウハウの共有が可能。
- ② 児童生徒のメリット
転校や進学の際、自分の学習データ等を持ち越すことが可能。
- ③ 将来的な教育データの利活用
ダッシュボード機能を実装するにはデータの一元化(統一ツール)が必要。

県域アカウントで利用可能な全国的によく使われているアプリケーション

- ① Google Classroom
学習管理ツール。クラス作成、課題作成、フィードバック等が行える。
 - ② Google スプレッドシート™
表計算ツール。複数人での同時編集が可能。
 - ③ Google スライド™
プレゼンテーション資料作成ツール。複数人での同時編集が可能。
 - ④ Google Chat™
個人宛からグループ間まで、手軽にコミュニケーションがとれるツール。
 - ⑤ Google ドライブ™
オンラインストレージ。ほかのユーザーの閲覧や編集を許可できる。
- ※使い方や活用例はこちら(参考サイト)
- ★徳島県GIGAスクールサポートサイト
- ★Google for Education